

令和7年度大学との連携事業の実績

No.	大学名	事業名	概要	内容実績	効果・評価	担当課
1	茨城キリスト教大学	日立市・茨城キリスト教大学連絡協議会連携事業「学生プロジェクト」	学生が主体的に取り組む、地域の課題解決や活性化テーマとした調査・研究活動を支援した。	1 実施期日 令和7年9月から令和8年3月まで 2 内容 (1) まちづくりに関する調査・研究の実施 (2) 成果発表会の実施（令和8年2月16日(月)） (3) 成果報告書の作成 3 実施プロジェクト (1) 「ウェルカム！スマイル作戦」 (2) 「誰一人取り残さない防災」 (3) 「日立市空き家活用推進プロジェクト」	・学生にまちづくりに関する学習機会を提供することができた。 ・学生に地元への興味と愛着を高めてもらうとともに、地域社会への貢献に対する意識を育成することができた。 ・本市のまちづくりに関するアイデアやニーズの掘り起こしができた。 ・地域住民に対して、学生の活動内容を周知することができた。	総合政策課
2	茨城キリスト教大学	日立市職員「グローバル・イングリッシュ研修」	「外国人にもやさしい市役所」を目指し、主に外国人と係わる職場の職員を対象として、茨城キリスト教大学との連携による英会話力向上研修「グローバル・イングリッシュ研修」を実施し、2コース(各コース10回)に市職員16名が参加した。全コースにおいて、同大学の日本人教員及び英語母語話者教員2名によるティーム・ティーチングによる指導を受けた。	1 実施期間 (1) おもてなし前期コース 令和7年 5月28日(水)から 7月30日(水)まで (2) おもてなし後期コース 令和7年10月1日(水)から12月10日(水)まで 2 受講者 16人	・英語による講義に戸惑いながらも、英語を聴き取り、会話を返せるように各自が努力し、英会話力がおおいに向上した。 ・業務に即した事例のテキスト、さらには補助プリントなどにより、現場で使える会話事例を学習するとともに、研修後は、それらを各職場での実践時にも活用している。 ・市の名所及びお土産をPRするプレゼンテーションを行ったことにより、市の魅力を再発見するとともに、外国人を市内案内する際に役に立つ経験を積むことができたと考えられる。	人事課
3	茨城キリスト教大学	経営学部経営学科「経営特講1」への講師派遣	茨城キリスト教大学経営学部経営学科「経営特講1」の講師として、市職員4名を派遣した。	1 実施期日 令和7年9月25日(木)から令和8年1月15日(木)まで(全4回) 2 講義内容等 (1) さくらのまちづくりについて (2) 循環型社会の実現に向けた取組について (3) ジャイアントパンダの誘致について (4) 「ヒタチエ」を核とした日立駅前地区のにぎわい創出について (5) 学生による成果発表会 3 受講者 101人	・職員の生の声を通じて、学生の地方行政に関する知識や能力を養成するとともに、学生のキャリア教育の向上に寄与することができた。 ・職員が講師を務めることにより、職員自身の能力向上を図ることができた。	人事課
4	茨城キリスト教大学	公開講座「地域のもしものに備えよう」地域防災プログラム	茨城キリスト教大学からの依頼により、大学主催の公開講座において、「災害の種類と直近の災害時に起こった被害の紹介(講義)」、「ハザードマップの見方と避難ルートの検討(演習)」、グループワーク、避難所体験等を	1 開催日 令和8年3月12日(木)～13日(金) 2 内容 (1) 多様な人達と共に生きるための自主防災力強化(共助) (2) 災害関連死を防ぐために住民同士で出来る取組(共助) 3 参加者 社会人(地域住民等)、行政、茨城キリスト協学園関係者、学生等	学生を含む幅広い世代の参加者に、災害時に自分の命を守るための知識を伝えることで、個々の防災力に加え、地域防災力の強化も図ることができた。	防災対策課
5	茨城キリスト教大学	サクレエであそぼう小学生向けプログラミング体験・キッズコーナー	日立製作所日立工業専修学校と茨城キリスト大学の中島ゼミが協働で小学生向けのプログラミングスペースや幼児が遊べるキッズコーナーを開設して来館者が体験した。	1 実施期日 令和8年1月24日(土) 2 内容 幼児用の知能玩具等を用意して、親子での遊びを一緒に体験(キッズコーナー) 3 参加者 60人	1 保育士を目指す学生達に日頃大学で学んでいることを実践する場を提供することができた。 2 人(保育士)を介した体験(遊び)を多くの来館者に提供することができた。	文化・国際課(日立シビックセンター)
6	茨城キリスト教大学	日立市美術展覧会運営委員	茨城キリスト教大学の学生(写真部)が日立市美術展覧会の運営委員としてかかわった。	運営委員会への参加:令和7年6月7日(土)、7月12日(土)、10月25日(土)10時～11時 会期中の受付:令和7年9月6日(土)～14日(日)	1 若い世代の視点を取り入れることで、新たなアイデアの掘り起こしにつながった。 2 学生の参画により、運営体制の活性化がはかれた。 3 日立市美術展覧会を通じて、学生に地元の文化活動を周知することができた。 4 学生が運営側として関わったことにより、学生の出品意欲が高まり、学生の出品	文化・国際課(日立シビックセンター)
7	茨城キリスト教大学	女性人材育成事業「1day女性カレッジ」	茨城キリスト教大学准教授を招き、目標に向かって行動するために欠かせない内面的な推進力の高め方やメカニズムについて、心理学の観点から学ぶ講座を開催した。	1 開催日 令和7年11月7日(金) 2 内容 「心を前向きにする 女性の発達心理学」 3 参加者 25名(託児3名)	心理学の観点から、生涯を通じた心の発達段階や各段階における課題について理解を深めたほか、それらを必要なプロセスとしてとらえ、前向きに乗り越えていくための心構えについて理解を深めることができた。	女性若者支援課
8	茨城キリスト教大学	リカレント教育連続講座2025	茨城キリスト教大学准教授を招き、リカレント教育連続講座として、女性の再就職や学びなおしなど、「なりたい自分」への一歩を後押しする講座を開催した。	1 開催日 令和7年11月20日(木) 2 内容 心理学「幸福感を高める働き方」 3 参加者 6名(託児1名)	先の見えない時代における自分に合った働き方について考えを深めたほか、予測不可能なことが多い人生において、想定外の出来事を最大限に活用することの重要性について理解を深めることができた。	女性若者支援課
9	茨城キリスト教大学	リカレント教育連続講座2025	茨城キリスト教大学教授を招き、リカレント教育連続講座として、女性の再就職や学びなおしなど、「なりたい自分」への一歩を後押しする講座を開催した。	1 開催日 令和7年11月12日(水) 2 内容 AIと社会「社会においてAIが担う役割とその影響」 3 参加者 6名	AIが人間にどのような恩恵や脅威について学び、統計的な正しさを兼ね備えたAIと、様々な価値観のなかで自らの意図を持ち行動する人間それぞれの得意・不得意を理解した役割分担の必要性について理解を深めることができた。	女性若者支援課
10	茨城キリスト教大学	日立市巡回支援専門員整備事業	茨城キリスト教大学のカウンセリング子育て支援センターに所属する教員が、市内の保育園等の施設を巡回訪問し、発達に気になる児童への対応について保育士等に対して助言等の支援を行った。	1 巡回に参加した教員 7人 2 訪問した園の数 14園 3 巡回した回数 42回	本事業を実施することで、保育士が児の苦手さや得意なことの特性を知り、発達状況に気づき、日頃保育している職員間で共有することにより、児にあった環境づくりや支援方法を検討していくことができた。また、保育士等の不安が緩和され、自信をもって保育することにつながっているため、引き続き実施していきたい。	障害福祉課
11	茨城キリスト教大学	居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり検討事業	日立駅周辺地区における新たな魅力づくりを進めるため、官民の多様な人材で構成する「日立駅周辺地区まちなかづくり」のメンバーとして、公共空間等を活用した社会実験イベントの企画・運営を行った。	1 実施期間 令和7年6月～2月 2 実施内容 (1) 日立駅周辺地区まちづくり会議における社会実験等の企画(11回) (2) まち歩きの実施(2回) (3) 公共空間等を活用した社会実験イベントの実施(3回)	まちづくり会議等を通して、学生に地区のまちづくりへの関心と愛着を高めてもらうとともに、若者世代のニーズを把握することができた。	都市政策課

令和7年度大学との連携事業の実績

No.	大学名	事業名	概要	内容実績	効果・評価	担当課
12	茨城キリスト教大学	産学官合同イベント「ひたちおさかなキッチン」開催	茨城キリスト教大学が㈱飛騨水産と共同で開催した市内水揚げのサバを使用した「さばてりっ！バーガー」の販売会をヒタチエで開催した。	1 開催日 令和8年2月28日 10時～ 2 題 目 産学官合同イベント「ひたちおさかなキッチン」 3 参 加 茨城キリスト教大学 講師3名 学生16名 ㈱飛騨水産株式会社 4名 4 販売物 さばてりっ！バーガー 200個(完売) ※㈱飛騨水産お弁当3種も販売	・市内水産物の普及に繋がった。	農林水産課
13	茨城キリスト教大学	観光物産振興計画推進事業	同学教授へ第4次日立市観光物産振興計画推進委員会委員長として参画	1 開催日 令和7年10月20日(月) 2 内容 (1) 第4次日立市観光物産振興計画の進捗状況について(令和6年度) (2) 令和7年度の取組内容について (3) 令和6年度専門部会の報告及び令和7年度の専門部会の進め方について	本市の観光施策等に対し、専門的な見地からの御意見をいただき、施策推進の指標となった。	観光振興課
14	茨城キリスト教大学	バンダ誘致推進事業	日立市ジャイアントバンダ誘致推進会議へ委員として、2名の学生が参画	1 開催日 令和7年7月2日(水) 2 内容 令和7年度日立市ジャイアントバンダ誘致推進会議総会出席	本市の観光施策等に対し、若者世代からの御意見をいただくなど、施策推進の参考となった。	観光振興課
15	茨城キリスト教大学	ひたちシーサイドマラソン事業	茨城キリスト教大学の学生が運営係員として関わった。	1 開催日 令和7年11月16日(日) 2 内容 給水所担当(20人)	ひたちシーサイドマラソンを通し、日立市に興味関心を持っていただく機会を提供することができた。	スポーツ振興課
16	茨城キリスト教大学	ひたちシーサイドマラソン事業	茨城キリスト教大学の学生が市内のおもてなしマップ(オンラインマップ)づくりに関わった。	1 実施日 令和7年6月から10月まで 2 内容 関係者(10人)	ひたちシーサイドマラソンを通し、日立市に興味関心を持っていただく機会を提供することができた。	スポーツ振興課
17	茨城キリスト教大学	ひたちシーサイドマラソン事業	茨城キリスト教大学の学生が大会用の「しらすクッキー」を作成し、当日会場で配布した。	1 実施日 令和7年11月16日(日) 2 内容 関係者(17人)	ひたちシーサイドマラソンを通し、日立市に興味関心を持っていただく機会を提供することができた。	スポーツ振興課
18	茨城キリスト教大学	日立市いじめ調査委員会	日立市いじめ調査委員会を開催した。(委員長:茨城キリスト教大学教授)	1 開催日 令和8年1月23日(金)、令和8年3月27日(金) 2 内容 いじめの防止等のための対策についての調査審議	いじめの防止等のための対策についての調査審議を行った。	指導課
19	茨城キリスト教大学	日立市いじめ問題対策連絡協議会	日立市いじめ問題対策連絡協議会を開催した。(委員:茨城キリスト教大学教授)	1 開催日 令和7年9月19日(金) 2 内容 いじめの定義等について 日立市における児童生徒のいじめの状況について 各組織・団体との連携について	関係機関の取組等の情報共有及びいじめの防止等のための施策に係る連絡調整を図ることができた。	指導課
20	茨城キリスト教大学	部活動の段階的な地域移行に向けた検討委員会	部活動の段階的な地域移行に向けた検討委員会を開催した。(委員長:茨城キリスト教大学准教授)	1 開催日 令和7年8月29日(金) 2 内容 日立市の部活動地域展開の進捗状況について グループ討議	部活動の段階的な地域展開の在り方について、検討を進めることができた。	指導課
21	茨城キリスト教大学	教育ボランティア支援事業	茨城キリスト教大学に教育ボランティア募集案内の協力を依頼し、応募した学生を採用した。学生は市内小・中学校、特別支援学校で学習指導の補助等のボランティア活動を行った。	1 実施期日 令和7年4月から令和8年3月まで 2 採用者 27人 3 採用実績(校種別) (1) 小学校14校 (2) 中学校2校	茨城キリスト教大学の学生が教育ボランティアに参加し、児童生徒の心身の健全な育成に寄与するとともに、学生等本人の教育に関する経験と見識を高めることができた。	指導課
22	茨城キリスト教大学	たがとしょかんこどもまつり	学生サークルTanPoPoの協力を得ることにより、人形劇を上演した。	1 開催日 令和7年11月15日(土) 2 内容 人形劇の実施 3 参加者 44人	・物語や昔話を人形劇として演じることにより、物語への興味を生じさせ、子ども読書活動推進計画における「子どもが読書に親しむきっかけづくり」とすることができた。 ・子どもにとって年齢が近く親しみやすい学生ボランティアの参加により、図書館をより身近に感じさせることができた。	多賀図書館
23	茨城キリスト教大学	読み聞かせ講座	茨城キリスト教大学の文学部の教授を講師に迎え「読み聞かせ講座」を開催した。	1 開催日 令和7年11月19日 2 題目 「読み聞かせを考える～松岡享子著『えほんのせかいこどものせかい』を手がかりに～」 3 受講者 25名	児童文学者松岡享子氏のアジアでの活動やアジアに関する本の知識を紹介し、読み聞かせを通じて理解を深めた。	南部図書館
24	茨城大学	プレコーオプ実習	茨城大学において令和6年4月に設立された「地域未来共創学環」における「コーオプ実習」の前段として就業体験(プレコーオプ実習)の受入れをした。	1 受入形態 コーオプ実習(3、4年次)の前段として実施する、社会人として必要な素養や基礎力の習得に係る業務の体験 2 受入期間 令和7年8月25日(月)～9月5日(金)(10日間) 3 受入課所 総合政策課(2名受入れ)	社会人としてのマナーやコミュニケーション、コンプライアンス意識などの実践力を身に付けるとともに、地元への関心と愛着を高め、地域社会への貢献に対する意識を育成することができた。	総合政策課

令和7年度大学との連携事業の実績

No.	大学名	事業名	概要	内容実績	効果・評価	担当課
25	茨城大学	茨城大学基盤教育開講授業「茨城学」への講師派遣	茨城大学基盤教育開講授業「茨城学」の講師として、市職員1名を派遣した。	1 開催日 令和7年7月4日(金) 2 内容 「地域を走って盛り上げる！ ～ひたちシーサイドマラソンによるまちづくり～」 3 受講者 887人	・職員の生の声を通じて、学生の地方行政に関する知識や能力を養成するとともに、学生のキャリア教育の向上に寄与することができた。 ・職員が講師を務めることにより、職員自身の能力向上を図ることができた。	人事課
26	茨城大学	日立市防災士養成講座	日立市防災士養成講座における履修科目の一つとして、講義「地震・津波による災害」について、河原純教授の講師派遣を依頼した。	1 開催日 令和7年8月30日(土)、8月31日(日) 2 内容 災害発生時のしくみ、災害に関する情報、災害対策、自助、共助等について 3 参加者 79名(コミュニティ関係者、市職員等)	新たに70名の方が防災士の資格を取得し、地域防災力の強化を図ることができた。	防災対策課
27	茨城大学	科学館「オープンラボ」	茨城大学工学部 梅津研究室の学生による修士論文、卒業論文の研究のシステム展示とデモンストレーションを行い、来館者が各種の学習支援システムを体験した。	1 実施期日 令和7年5月31日(土)、6月1日(日) 2 内容 (1) 写真入りクイズの印刷 (2) 文字を用いたメディアアートの実演と印刷・配布 (3) QRコードとカメラを使用したアシスト機能付き15面パズル	1 大学での研究成果を発表する場を提供することができた。 2 大学の専門的な研究を子どもたちにわかりやすく説明し体験する場を提供することができた。	文化・国際課(日立シビックセンター)
28	茨城大学	科学体験事業「プログラミング教室」	茨城大学工学部 梅津研究室によるプログラミング教室を実施。プログラミング教材「Scratch」を用いてゲームを作る講座を実施した。	1 実施期日 令和7年5月31日(土)、6月1日(日) 2 内容 梅津准教授及び学生によるプログラミングを用いて簡単なゲームを作成する講座を実施 3 参加者 17人	1 大学教員および学生による指導体制のもと、専門性の高いプログラミング教育と児童一人ひとりに応じたきめ細かな支援を提供することができた。 2 体験的な学習を通じてプログラミングの基礎的な考え方の理解を促すとともに、主体的な学びや学習意欲の向上につなげることができた。	文化・国際課(日立シビックセンター)
29	茨城大学	科学館「オープンラボ」	茨城大学工学部 湊研究室学生による各種センサーを用いたワークショップを実施、来館者が各種様々なセンサーを用いた体験をした。	1 実施期日 令和7年7月24日(木) 2 内容 研究内容「地震がはかれる加速度センサ」など様々なセンサを見てさわっての体験 3 参加者 延べ20人	1 大学での研究成果を発表する場を提供することができた。 2 大学の専門的な研究を子どもたちにわかりやすく説明し体験する場を提供することができた。	文化・国際課(日立シビックセンター)
30	茨城大学	科学館「オープンラボ」	茨城大学工学部 城間研究室の学生による修士論文、卒業論文の研究のシステム展示とデモンストレーションを行い、来館者が各種のロボット操作を体験した。	1 実施期日 令和7年7月30日(水) 2 内容 (1) 自立ロボットの走行デモ (2) ロボットを使った地図作成 3 参加者 60人	1 大学での研究成果を発表する場を提供することができた。 2 大学の専門的な研究を子どもたちにわかりやすく説明し体験する場を提供することができた。	文化・国際課(日立シビックセンター)
31	茨城大学	科学館「オープンラボ」	茨城大学工学部 道辻研究室の学生による修士論文、卒業論文の研究のシステム展示とデモンストレーションを行い、来館者が各種の学習支援システムを体験した。	1 実施期日 令和7年8月9日(土) 2 内容 (1) 鉄道車両のダイナミクスに関する研究 (2) 鉄道車両車輪の違い体験 3 参加者 45人	1 大学での研究成果を発表する場を提供することができた。 2 大学の専門的な研究を子どもたちにわかりやすく説明し体験する場を提供することができた。	文化・国際課(日立シビックセンター)
32	茨城大学	ミラクルタイルアートで脳と視覚の不思議体験	茨城大学工学部 矢内准教授による小学生・中学生・高校生を対象とした、視覚や脳の働きに関する不思議な現象を体験的に学ぶワークショップ。タイルアート制作を通じて論理的思考やプログラミング的思考に触れる機会とした。	1 実施期日 令和7年8月23日(土) 2 内容 タイルアートの製作ワークショップ 3 参加者 9人	1 大学と連携した専門的な知見に基づく指導により、視覚や脳の働きに関する体験的な学習機会を提供し、錯覚や認知の仕組みに対する理解を深めることができた。 2 大学教員および学生の関わりのもと、タイルアートの制作過程を通じて論理的に組み立てる思考を促し、プログラミング的思考の基礎に触れる機会を提供することができた。	文化・国際課(日立シビックセンター)
33	茨城大学	科学館「オープンラボ」	茨城大学工学部 梅津研究室の学生による修士論文、卒業論文の研究のシステム展示とデモンストレーションを行い、来館者が各種の学習支援システムを体験した。	1 実施期日 令和7年10月4日(日)、5日(月) 2 内容 (1) 写真入りクイズの印刷 (2) 文字を用いたメディアアートの実演と印刷・配布 (3) QRコードとカメラを使用したアシスト機能付き15面パズル (4) LiDARセンサによる人流計測のプロトタイプ (5) ドームスクリーンによる没入感クイズ (6) 日立市の祭りを探す郷土教育ゲームの実施 3 参加者 延べ350人(2日間) (※)LiDAR:レーザー光を照射して、その反射光の情報をもとに対象物までの距離や対象物の形などを計測する技術のこと。	1 大学での研究成果を発表する場を提供することができた。 2 大学の専門的な研究を子どもたちにわかりやすく説明し体験する場を提供することができた。	文化・国際課(日立シビックセンター)
34	茨城大学	科学館「オープンラボ」	茨城大学工学部 梅津研究室の学生による修士論文、卒業論文の研究のシステム展示とデモンストレーションを行い、来館者が各種の学習支援システムを体験した。	1 実施期日 令和8年1月10日(土)、11日(日)、12日(月) 2 内容 (1) 写真入りクイズの印刷 (2) 文字を用いたメディアアートの実演と印刷・配布 (3) QRコードとカメラを使用したアシスト機能付き15面パズル (4) LiDARセンサによる人流計測のプロトタイプ (5) ドームスクリーンによる没入感クイズ (6) 日立市の祭りを探す郷土教育ゲームの実施 3 参加者 延べ350人(2日間) (※)LiDAR:レーザー光を照射して、その反射光の情報をもとに対象物までの距離や対象物の形などを計測する技術のこと。	1 大学での研究成果を発表する場を提供することができた。 2 大学の専門的な研究を子どもたちにわかりやすく説明し体験する場を提供することができた。	文化・国際課(日立シビックセンター)

令和7年度大学との連携事業の実績

No.	大学名	事業名	概要	内容実績	効果・評価	担当課
35	茨城大学	リカレント教育連続講座2025	茨城大学教授を招き、リカレント教育連続講座として、女性の再就職や学びなおしなど、「なりたい自分」への一歩を後押しする講座を開催した。	1 開催日 令和7年11月5日(水) 2 内容 情報セキュリティ概論(ICT概論)「情報セキュリティ技術と社会の在り方」 3 参加者 6名	ICT技術の発展に伴い重要性を増している情報セキュリティ技術の現状および重要性について学んだほか、AI活用時の安全性や量子計算機実現の可能性など、今後の社会予測について理解を深めることができた。	女性若者支援課
36	茨城大学	リカレント教育連続講座2025	茨城大学准教授を招き、リカレント教育連続講座として、女性の再就職や学びなおしなど、「なりたい自分」への一歩を後押しする講座を開催した。	1 開催日 令和7年11月20日(木)、11月27日(木)、12月4日(木) 2 内容 「データ分析プログラミング講座(全3回)」 3 参加者 延べ16名	プログラミング言語「Python(パイソン)」を用いたデータ分析プログラミング演習を全3回にわたり実施。プログラミングを使用したグラフの作成や、英文の単語数カウントなど、ネット上のデータのグラフ化に取り組む機会を提供することができた。	女性若者支援課
37	茨城大学	公立幼稚園等特別支援教育担当者研修	公立幼稚園等知的・情緒障害児通級学級(さくら組・にじ組)の指導に当たる教諭等に対して、茨城大学教育学部障害児教育教室の准教授等から指導や助言を受ける。	1 実施期間 令和7年5月～2月(年間14回) 2 実施内容 ・ さくら組・にじ組担当教諭等の指導内容に関する助言(ケース検討) ・ 幼稚園教諭等を対象とした特別支援教育に関する研修会 ・ 支援を要する児童の保護者に対する研修会	通級している幼児への支援の仕方や指導方法、保護者や教師の悩みについて助言や指導を受け、授業に活かすことができた。	子ども施設課
38	茨城大学	常陸多賀駅周辺地区整備事業	常陸多賀駅周辺地区整備事業の周知を図るとともに、駅周辺施設整備を契機とした賑わいの創出と持続可能なまちづくり体制構築のため、演習授業への参画やまちづくりについての意見交換等を行った。	1 開催日 令和7年4月18日(金)から7月13日(金)まで 2 題目 茨城大学工学部都市システム工学科「社会基盤設計演習Ⅰ」 3 内容 学生による常陸多賀駅周辺地区や公共交通に関する課題解決策の立案支援及び意見交換の実施	まちづくりに関する調査・研究を通して、学生に地元への関心と愛着を高めてもらうとともに、若者世代のニーズを把握することができた。	常陸多賀駅周辺地区整備課 都市政策課
39	茨城大学	居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり検討事業	日立駅周辺地区における新たな魅力づくりを進めるため、官民の多様な人材で構成する「日立駅周辺地区まちなかづくり」のメンバーとして、公共空間等を活用した社会実験イベントの企画・運営を行った。	1 実施期間 令和7年6月～2月 2 実施内容 (1) 日立駅周辺地区まちづくり会議における社会実験等の企画(11回) (2) まち歩きの実施(2回) (3) 公共空間等を活用した社会実験イベントの実施(3回)	まちづくり会議等を通して、学生に地区のまちづくりへの関心と愛着を高めてもらうとともに、若者世代のニーズを把握することができた。	都市政策課
40	茨城大学	大学生・高専生等との技術開発型人材との交流	学生による地域中小企業へのインターンシップのマッチング支援を実施した。	1 実施期日 令和7年4月から令和8年3月まで 2 実施件数 24件	インターンシップを通じて地域の学生が地域中小企業で働くことの意識付けをすることができ、1名の学生の就職に結びついた。	商工振興課
41	茨城大学	ウミウの遺伝的多様性の解析	ウミウの種の多様性に関する情報がないため、DNA解析により遺伝的多様性を調査した。	1 調査対象 ウミウ 2 調査内容 ウミウの各個体から血液を収集し、抽出したDNAを用いた解析	これまでの遺伝子レベルでの研究がほとんど行われていなかったウミウの塩基配列を決定し、カワウとの比較によりウミウのほうが遺伝的多様性が高いことが示された。	かみね公園管理事務所
42	茨城大学	ワークシート活動を通じた動物園の教育的効果の検証	子どもが楽しみながら動物をより深く観察できるワークシートを考案し、動物園の役割のひとつである「教育・環境教育」の強化に繋げる。	1 調査対象 来園者 2 調査内容 (1) ワークシートの作成 (2) ワークシートの配布及び集計 (3) 活動の振り返り及び修正	1 学習効果の向上 大学の知見を取り入れたワークシートを活用することで、単なる見学に留まらない、能動的な観察と学びの機会を提供できる。 2 教員の負担軽減と利便性の向上 引率する教員側で資料を自作する手間が省けるため、授業準備の負担を大きく軽減することができた。	かみね公園管理事務所
43	茨城大学	ひたちシーサイドマラソン事業	茨城大学陸上部学生が競技補助員として運営に関わった。	1 開催日 令和7年11月16日(日) 2 内容 競技運営補助(10人)	ひたちシーサイドマラソンを通じ、日立市に興味関心を持っていただく機会を提供することができた。	スポーツ振興課
44	茨城大学	教育ボランティア支援事業	茨城大学に教育ボランティア募集案内の協力を依頼し、応募した学生を採用した。学生は市内小・中学校、特別支援学校で学習指導の補助等のボランティア活動を行った。	1 実施期日 令和7年4月から令和8年3月まで 2 採用者 2人 3 採用実績(校種別) 小学校2校	茨城大学の学生が教育ボランティアに参加し、児童生徒の心身の健全な育成に寄与するとともに、学生等本人の教育に関する経験と見識を高めることができた。	指導課
45	茨城大学	久慈町・舟戸山古墳の測量調査(第3次)	茨城大学考古学研究室(協力:東海大学)による舟戸山古墳(日立市久慈町4丁目地内)のレーダー探査等を行った。	1 目的 日立市舟戸山古墳の埋葬施設の所在の有無などの把握 2 内容 「考古・文化遺産実習」における発掘調査の実施	日立市舟戸山古墳の墳丘形状及び埋葬施設の所在の有無等を把握することで、当該古墳の築造時期などについて把握することができた。	郷土博物館
46	茨城大学	図書館資料の相互貸借	市立図書館と大学図書館において、所蔵資料の相互貸借を実施した。	1 大学からの借用 18件 2 大学への貸出 2件 (記念、多賀、十王、南部 4館合計)	借用した本は、借用した全体の冊数の2%程度ではあるが、専門性の高いもので、市外の公共図書館では所蔵していない資料であり、利用者の要求に迅速に対応ができた。	記念図書館
47	常磐大学	第3回子どもセンター子育て講座	様々な専門職の講師をお招きして子育てに関する講座を開催し、子どもの発達段階に応じた学びの場を提供した。	1 開催日時 令和7年11月12日(水) 2 場所 多賀市民会館 3 内容 「親子でたのしみふれあう音楽あそび ～絵本・あそびうた・パネルシアター～」 4 講師 鈴木 範之氏(常磐大学 准教授)	未就学児の保護者を対象に、子どもの発達段階に応じた学びの場を提供し、家庭における子どもとの関わり方や保護者が抱える育児不安の軽減等に努めた。	子どもセンター

令和7年度大学との連携事業の実績

No.	大学名	事業名	概要	内容実績	効果・評価	担当課
48	常磐大学	第4回子どもセンター子育て講座	様々な専門職の講師をお招きして子育てに関する講座を開催し、子どもの発達段階に応じた学びの場を提供した。	1 開催日時 令和8年2月17日(火) 2 場所 会瀬青少年の家 3 内容 「私のストレス、私の力～育児のなかで見つける私の回復力～」 4 講師 馬場 久美子氏(常磐大学 教授) 5 参加者 保護者13名	未就学児の保護者を対象に、子どもの発達段階に応じた学びの場を提供し、家庭における子どもとの関わり方や保護者が抱える育児不安の軽減等に努めた。	子どもセンター
49	筑波大学	女性のヘルスケア地域医療学寄附研究部門事業	本市の要請に基づき、筑波大学において地域医療における女性のヘルスケア全般について対応する産婦人科医療体制の在り方に関する研究を行うとともに、その成果の普及等を行い、地域医療向上に寄与する。	1 実績 日立総合病院に対し、9名の産婦人科医師の派遣(派遣元:筑波大学) 2 実施期日 令和6年4月1日から令和11年3月31日まで(5年間)	日立総合病院において、よりリスクの高い分娩や、婦人科悪性腫瘍への対応など、産婦人科診療体制の充実が図られた。	地域医療対策課
50	筑波大学	宇宙少年団2月活動	筑波大学芸術系 村上助教と学生による火星移住をイメージした街を作成するワークショップを実施。宇宙少年団の団員達が、火星環境を考えながら現在の地球についても考えるSDGs的要素を取り入れた課題に取り組んだ。	1 実施期日 令和8年2月22日(日) 2 内容 火星移住を考えながら現在の地球についても考えるSDGs的要素を取り入れたワークショップの実施。 3 参加者 27人	1 大学教員および学生との連携により、専門的な視点を取り入れた創造的な学習機会を提供し、火星環境を踏まえたまちづくりへの理解を深めることができた。 2 火星移住というテーマを通じて地球環境や持続可能性について考える機会を創出し、SDGsの視点を取り入れた課題解決型の学びを促進することができた。 借用した本は、借用した全体の冊数の2%程度ではあるが、専門性の高いもので、市外の公共図書館では所蔵していない資料であり、利用者の要求に迅速に対応が出来た。	文化・国際課(日立シビックセンター)
51	筑波大学	図書館資料の相互貸借	市立図書館と大学図書館において、所蔵資料の相互貸借を実施した。	1 大学からの借用 93件 2 大学への貸出 4件 (記念、多賀、十王、南部 4館合計)		記念図書館
52	茨城県立医療大学	図書館資料の相互貸借	市立図書館と大学図書館において、所蔵資料の相互貸借を実施した。	1 大学からの借用 5件 2 大学への貸出 0件 (記念、多賀、十王、南部 4館合計)	借用した本は、借用した全体の冊数の2%程度ではあるが、専門性の高いもので、市外の公共図書館では所蔵していない資料であり、利用者の要求に迅速に対応が出来た。	記念図書館
53	専修大学	日立市防災士養成講座	日立市防災士養成講座における履修科目の一つとして、講義「地震、津波への備え」「風水害、土砂災害への備え」について、鈴木比奈子助教の講師派遣を依頼した。	1 開催日 令和7年8月30日(土)、8月31日(日) 2 内容 災害発生のしくみ、災害に関する情報、災害対策、自助、共助等について 3 参加者 79名(コミュニティ関係者、市職員等)	新たに70名の方が防災士の資格を取得し、地域防災力の強化を図ることができた。	防災対策課
54	お茶の水女子大学	男女共同参画セミナー	お茶の水女子大学より講師を招き、男女共同参画に関する講演会を開催。	1 開催日 令和7年10月5日(日) 1 内容 「私の人生、私らしく 一長い人生を生き抜こう」 3 参加者 26名	男女共同参画社会の推進について意識啓発を図ることができた。	女性若者支援課
55	中央学院大学	男女共同参画セミナー	中央学院大学より講師を招き、毎日の生活の中に残る性別役割分業や社会制度、慣習・慣行など無意識の思い込みについて知りることについて考えるための講演会を開催。	1 開催日 令和8年3月14日(土) 2 内容 「地域から実現する男女共同参画」 3 参加者 15名	男女共同参画社会の推進について意識啓発を図ることができた。	女性若者支援課